

1 平成21年度小教研道德部会研究主題

一人一人の思いを深め 人間らしいよさを心にきざむ 道德の時間の指導の在り方

2 研究主題の趣旨

(1) 研究主題設定の背景

本県では、昨年度から「一人一人の思いを深め 人間らしいよさを心にきざむ 道德の時間の指導の在り方」という研究主題のもと、道德の時間をより充実したものとし、子どもたちが、自己の生き方についての考えを深めることができる指導の在り方について実践研究を進めてきた。

このような研究主題を設定したのは、平成17年度から3年間、研究主題「自己を見つめ、心豊かに生きる子どもを育てる道德教育」のもとで、道德の時間の積み上げが子どもたちの健やかな心の成長に寄与する実践を目の当たりにし、さらなる成果が得られるように、道德教育の要である道德の時間の実践研究を重ねる必要があると思われたからである。また、平成18年12月に改正された教育基本法の教育の目標にも、豊かな情操と道德心の育成を始めとし、生命を尊び環境の保全に寄与する態度などが示されていたこと、平成20年3月に出された「小学校学習指導要領」の総則にも、「道德の時間を要として」という文言が加わり、道德の時間の重要性が示されていたことが挙げられる。さらに、道德の時間における指導の形式化の指摘などがあったことから、道德の時間が、子どもたちにとって、より魅力のあるものとなるよう、その役割と成果について見直す必要があると考えたためである。

昨年度は、美馬郡の太田小学校を中心に各都市で熱心な実践研究が行われ、多くの成果と同時に、課題も確認することができた。成果としては、6つの研究内容について、それぞれに充実した道德の時間となるよう、工夫した実践が行われたということである。よりよい発言を見出すための緻密な資料分析や発言のあり方の工夫により、子ども一人一人が、心を動かし思いが深まる授業が展開されたことは、その一例である。課題としては、自己の生き方についての考えを深めるための、さらに魅力的な教材の開発・選定の工夫や批判的手法を含む指導方法の充実などが挙げられる。

本年度は、このような成果と課題に立脚し、引き続き本主題「一人一人の思いを深め 人間らしいよさを心にきざむ 道德の時間の指導の在り方」のもと、子どもたちが自己の生き方についてさらに考えを深めることができる道德の時間の指導の在り方について、実践研究を進めていきたい。

(2) 研究主題について

「一人一人の思いを深め」とは

人間は、かけがえのない存在として生まれ、一人一人人間としてよりよく生きたいという思いをもって毎日の生活を送っている。その思いは、様々である。先ず自分が健康でありたいとか、知識や技能を身に付けたいという、個人としてよりよく生きることに対する思いがある。同時に、他者も自分と同じような思いをもっていることを認め、他者と助け合ってお互い協力していこうという、社会的存在としてよりよく生きることに対する思いもある。また、衣食住など物質的に恵まれた生活についての思いと同時に、楽しい生活を送りたいとか、心豊かに生きたいという精神的な生活についての思いも持っている。

このように人間は、自己の生き方について様々な思いをもって、時に挫折し、絶望したり苦悩したりしながらも、それを乗り越えて再び希望をもち、夢を描いて生きていく。その中で、人は時に立ち止まり、「自分の考えは、これでよいのか。」と自らに問い、人間としての自己の在り方や生き方を振り返りながら、よりよく生きようとするのである。

道德の時間において「一人一人の思いを深め」とは、子どもがよりよく生きるということについて、どのような思いをもっているかを明らかにし、自己の生き方を見つめる中で、自己の思いにどのような弱さや醜さがあるか、さらに、それを乗り越えて人間的なよさを実現する力があるかということ、子ども自身が見出していくことであるといえよう。その折り、子ども一人一人が内省するわけだが、決して自分一人で思いを深めていくわけではない。教師や友達などの発言を聞いた、資料に描かれている主人公を通して道徳的価値に触れたりし、「自分もそのように思う。」という共感、「このような感じ方や考え方があったのか。」という気付きや驚き、「自分の考えはこれでよかったのだ。」という納得、「どうなのだろう。自分は間違っているのだろうか。」という反問などを繰り返していく。つまり、他者の影響を受けつつ、一人一人が異なった自分だけの体験と重ねたり比べたりしながら、心を動かしていくのだ。そして、自らの思いを深化・拡充させながら、一人一人が自己の生き方をよりよい方向へと変容させていくのである。

「人間らしいよさ」とは

「人間らしいよさ」とは、人間としての本来的な在り方やよりよい生き方を目指してなされる道徳的行為を可能にする人格的特性であり、人格の基盤をなすものである。またそれは、人間に固有であり、人間の特性を表すよき事柄ということが

できる。そして、これらの根底にあるのは、人間は常に、より高い、より理想的な価値を志向する存在であるということである。

ところで、「人間らしいよさ」について考察するとき、必ずしも肯定的・価値志向的な側面だけをみるのではない。もともと人間性には、相反する側面がある。一つは、人間の有限性に由来する弱さ、醜さを許容する側面であり、これに対するのは、有限であるからこそ、それを乗り越えて絶対的なもの、よりよいものを求めていこうとする強さや気高さの側面である。このことから、「人間らしいよさ」とは、「自己の弱さや醜さの自認から、現状に安易にとどまろうとする誘惑を乗り越えて、理想を求め、強く気高く生きようとする姿」ととらえるべきである。道德の時間において、「人間らしいよさ」を追求する場面では、人間のもつ二面性に留意する必要がある。

この人間性の二面性に着目するとき、道德の指導には、次の二つのタイプが考えられる。一つは、人間の弱さや醜さに着目した場合、ア 人間のもつ弱さ醜さを人間誰にも共通することとして共感させる、イ 道德的価値に照らして、これを克服できるようにする、ウ 価値実現の喜びを感得させる、ということになる。二つは、人間の強さや気高さに着目した場合、ア 道德的価値の深い意義を理解できるようにする、イ その価値実現がいかに偉大なことであるか納得できるようにする、ウ 価値実現の可能性を確認する、ということになろう。

「心にきざむ」とは

「心にきざむ」とは、語義的には「心に深く印象づける」ということである。つまり、これは、「心にとめる」とも「心に残す」とも違い、事柄をいつまでも忘れ得ぬように心に深くとどめおくということである。そして、そのように心にきざまれた事柄は、時を経ても場所を違えても、人間の心に色褪せることなく存在し続け、人間の生き方を支え定め、生きる上の道しるべとなる。

道德の時間が、確かな道德的実践力の育成につながるためには、「人間らしいよさ」を見つめ確実にとらえさせなければならない。「人間らしいよさ」を確実に理解すればするほど、子どもは、自ずとその価値に照らして、今までの自分はどうかであったかを振り返り、これからの自己の生き方についてより深く考えようとするであろう。

道德の時間において、「人間らしいよさ」を単に「心に残す・とめる」というのでは、それが切実に自分の課題として強く子どもの心に残り、その後の生き方に反映されるに至らない恐れがある。そこで、「人間らしいよさ」について、時に鮮烈に、時に心の襞に染み入るがごとく、何時までも消えぬよう確実に心にとどめ、子ども自身がこれからの自己の生き方についてより深く考えることができるようにする必要がある。これには、子どもの心が強く感動すること、豊かなイメージによって伝えられること、事柄の意味を深くかつ正確にとらえること、子どもが納得することなどが肝要となってくる。

また、子どもたちが、「人間らしいよさ」を主体的に「心にきざむ」ことができるよう、道德の時間の指導を工夫する必要がある。

3 研究内容と留意点

(1) 道德の時間に機能する指導計画の工夫

- ・各学校の特色を示し、実際に活用できる有効で具体性のある全体計画
- ・発達段階に応じて指導の重点化を図った年間指導計画(総合単元的な道德学習など)
- ・教師や児童の個性や思いを生かした学級における指導計画
- ・道德の時間に機能するための指導計画の評価

(2) 自己の生き方についての考えを深めるための指導過程・指導方法の工夫

- ・3段階(導入、展開前段・後段、終末)にこだわらない多様な指導過程
- ・1時間1主題の枠組みにとられない指導過程
- ・共感的手法や批判的手法など多様な指導の工夫
- ・ねらいを達成するための思考や話し合いを深める発問や板書
- ・役割演技など具体的場面を通じた表現活動
- ・道德的価値の自覚を深めるにいたる指導過程・指導方法の評価

(3) 自己の生き方についての考えを深めるための資料の開発・選定・活用の工夫

- ・発達段階に応じ、各学年で重点化された内容項目に関する資料の開発・選定
- ・子どものさまざまな体験、教師の体験や願い、地域の文化や特性、保護者や地域の人々の生き方や願いなどを素材とした、子どもの心に響く資料の開発・選定
- ・子どもの興味や関心を高めるため、写真、新聞、VTR、CD、調査データ等の活用
- ・資料の開発・選定・活用の評価

(4) 道徳性の評価の工夫

- ・子どもが自分の心の成長を確認できるような自己評価の工夫
- ・道徳性の高まりの評価の工夫

(5) 体験を生かした道徳の時間の工夫

- ・学校の特色を生かした体験活動の重視と、それらの体験を道徳の時間に生かす工夫
- ・体験の中にある道徳的価値に気付き深める道徳の時間の工夫
- ・実践化につながる道徳の時間の工夫

(6) 家庭や地域社会と連携して道徳の時間の充実を図る工夫

- ・保護者や地域の人たちの願いを生かした道徳の時間の工夫
 - ・保護者や地域の人たちの参加による道徳の時間の工夫
 - ・家庭や地域社会への積極的な授業公開の工夫
 - ・保護者や地域の人たちと連携を深める「心のノート」の活用の工夫
-